

森林環境教育

持続可能な開発のための教育（ESD）

日時：平成25年12月7日（土） 13:00～15:00

講師：愛知県環境部

概況



科目名：森林環境教育 持続可能な開発のための教育(ESD)

1. ESDユネスコ世界会議に向けて

愛知県環境部ESD会議支援室 室長補佐 天野 克則

「ESD」とは、「持続可能な開発のための教育」であり、地球サミットをきっかけに世界中で進められている取組である。「持続可能な開発」とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」である。これまで経済開発が優先されてきたため、地球環境、貧困、人権、平和、食糧確保、資源枯渇など、解決困難な問題を抱えている。持続可能な開発をするための「人づくり」にはESDが必要である。ESDユネスコ世界会議は2014年11月に名古屋で開催され、地元では会議支援、あいち・なごやの魅力発信、ESDの普及啓発、ESDの取組促進がなされている。

2. 環境学習の取組について

愛知県環境部環境活動推進課 課長補佐 加藤 直巳

ヨハネスブルグサミットにおいて、「ESDの10年」が提案された。日本では、「環境教育等推進法」が公布され、環境保全活動の意欲の増進や環境教育とともに、協働取組がされることとなった。愛知県では、第三次愛知県環境基本計画において「自然の叡智に学ぶ持続可能な循環型社会づくり」が目標とされ、脱温暖化社会、資源循環社会、自然共生社会、安心・安全社会、参加・協働社会の5つの社会づくりが提示されている。これまでの取組として環境学習基本方針の策定、環境学習プログラムの

開発、指導者の育成、環境学習の実施事例などが紹介され、環境学習の現状と課題、環境学習等行動計画についての説明がなされ、各主体に期待される主な取組が提示された。

3. 生態系ネットワークの形成について

愛知県環境部自然環境課 課長補佐 前田 善明

愛知県においては愛・地球博、COP10が開催され、COP10においては「愛知目標」として世界共通の戦略計画が提示されている。

生態系ネットワークの県内展開について、「あいちミティゲーション」では「代償」は原則区域内に、そうでなければネットワーク形成をしなければならないとされている。事例として、大府駅周辺での豊田自動織機のビオトープや、知多半島の「ごんぎつねと住める知多半島」プロジェクト、金城学院大学キャンパスでの取組、あいち自然再生カレッジ、西三河地域での経済と自然の再生などが紹介された。